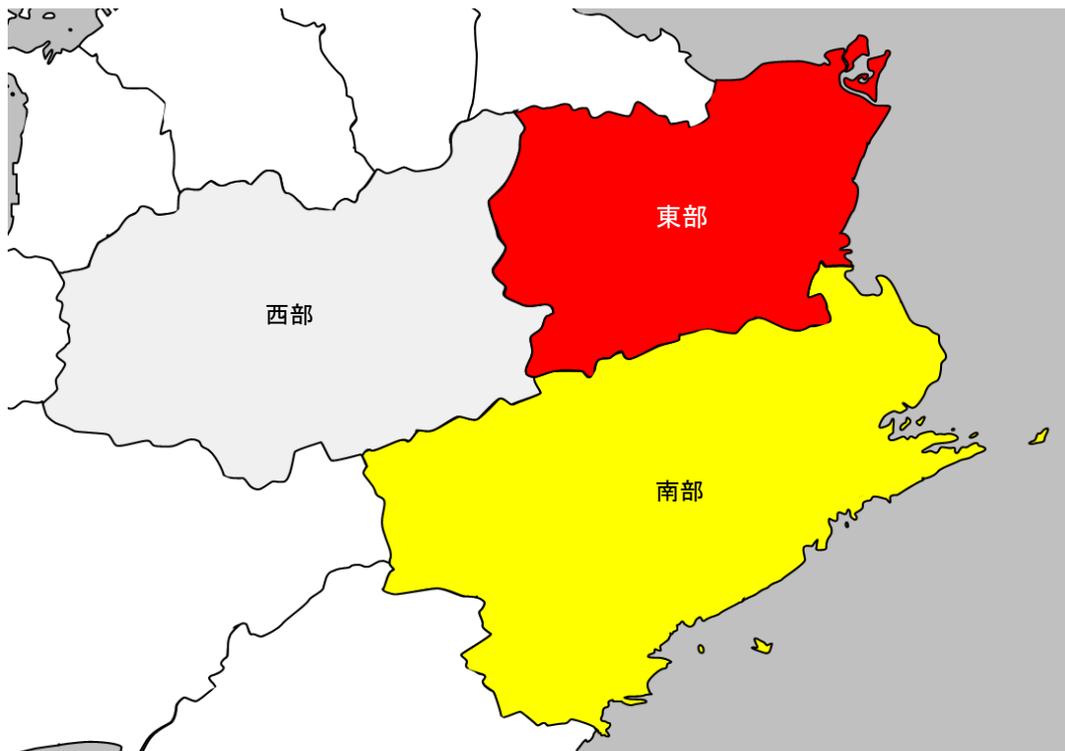


# 36. 徳島県

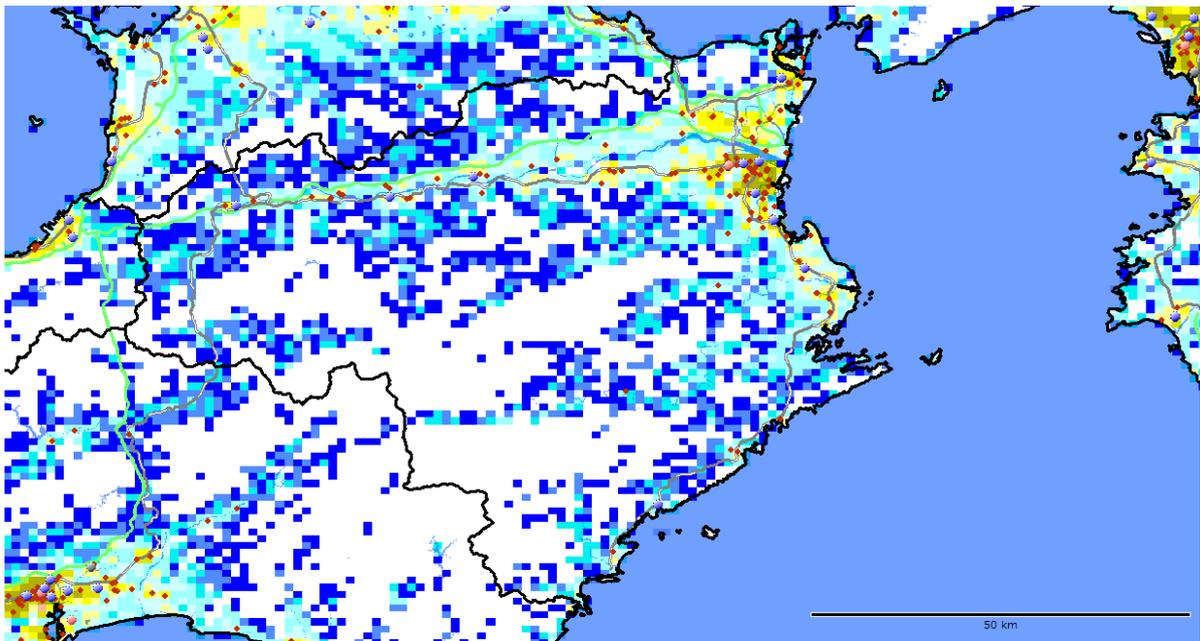


目次

徳島県	36	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	36	-	8
1. 東部医療圏	36	-	20
2. 南部医療圏	36	-	25
3. 西部医療圏	36	-	30

# 36. 徳島県

人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。  
赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は  
中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が  
少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS  
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



## (徳島県) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 徳島県は、総人口約756千人(2015年)、面積4,147km<sup>2</sup>、人口密度は182人/km<sup>2</sup>である。

\*人口の将来予測： 徳島県の総人口は2025年に688千人へと減少し(2015年比-9%)、2040年に574千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の121千人が、2025年にかけて143千人へと増加し(2015年比+18%)、2040年には140千人へと減少する(2025年比-2%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 徳島県の一人当たり医療費(国保)は405千円(偏差値61)、介護給付費は287千円(偏差値60)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 徳島県の一人当たり急性期医療密度指数は1.12、一人当たり慢性期医療密度指数は2.27で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が58(病院医師数58、診療所医師数58)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は62と多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は57で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は53とやや多い。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は65と療養病床数は多い。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値66と非常に多く、回復期病床数は偏差値62と多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は60で精神病床数は多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は59で診療所数は多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 徳島県の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、14,004人(75歳以上1,000人当たりの偏差値56)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が9,067床(偏差値61)、高齢者住宅等が4,937床(偏差値48)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、11,093人(75歳以上1,000人当たりの偏差値62)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設71、特別養護老人ホーム44、介護療養型医療施設67、有料老人ホーム38、軽費ホーム44、グループホーム63、サ高住55である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値58と多く、在宅療養支援病院は偏差値83と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値60と多い。介護職員(在宅)の合計は、2,196人(75歳以上1,000人当たりの偏差値59)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-2%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

## 2. 推移

### 【人口と医療需要】

徳島県の総人口は、2005年809,950人が、2015年に755,733人と7%減少し、2025年の人口が687,680人と予測され、2005年→2025年の間に15%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に5%増加し、2015年から2025年にかけてほぼ増減なしと予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

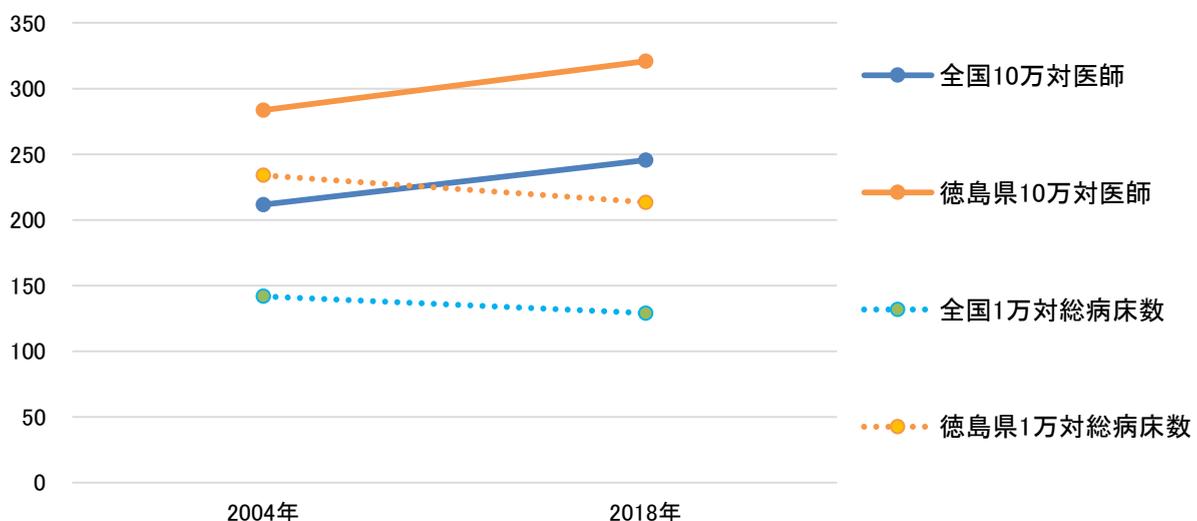
2004年の病院数が123(人口10万人当たり15.2病院(全国平均7.1)偏差値71)であったが、2018年に109(人口10万人当たり14.4病院(全国平均6.6)偏差値70)となり、14年間で14病院が減少した。

2004年の診療所数が791(人口10万人当たり98診療所(全国平均76)偏差値61)であったが、2018年に730(人口10万人当たり97診療所(全国平均80)偏差値59)と、61診療所が減少した。

2004年の総病床数が18,952床(人口1万人当たり234(全国平均142)偏差値66)であったが、2018年に16,127床(人口1万人当たり213(全国平均129)偏差値66)と、2,825床の減少、率にして15%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

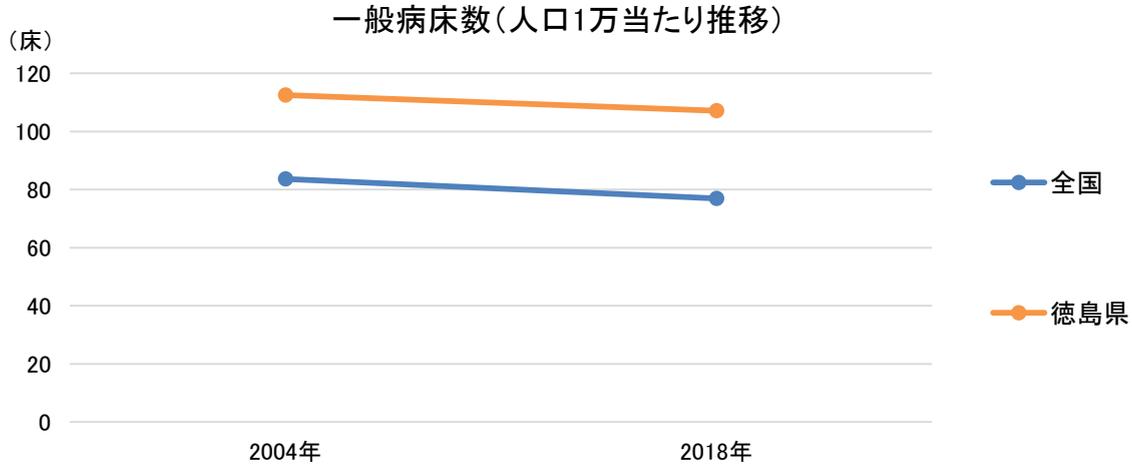
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が2,296人(人口10万人当たり283人(全国平均212人)偏差値59)であったが、2018年に2,425人(人口10万人当たり321人(全国平均245人)偏差値58)と、129人の増加、率にして6%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



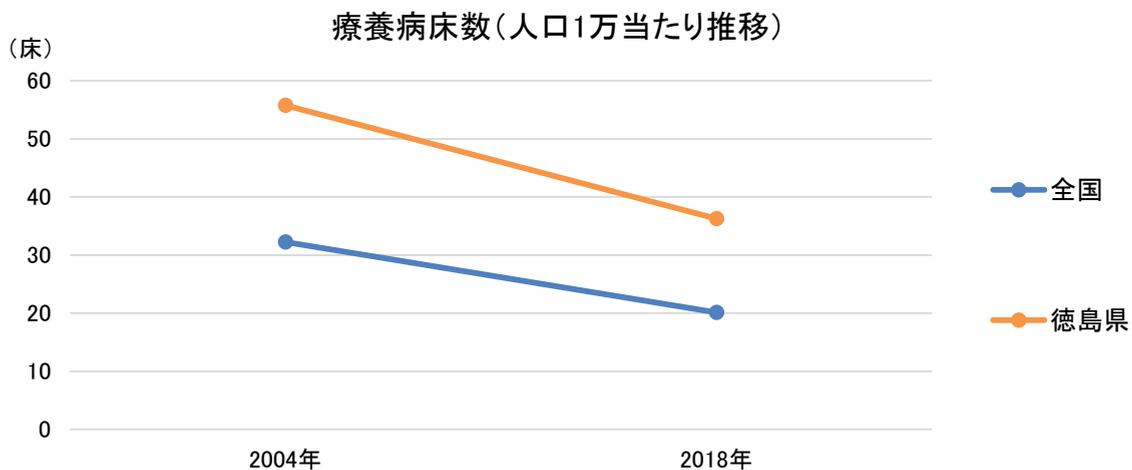
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が9,115床(人口1万人当たり113(全国平均84)偏差値60)であったが、2018年に8,096床(人口1万人当たり107(全国平均77)偏差値62)と、1,019床の減少、率にして11%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



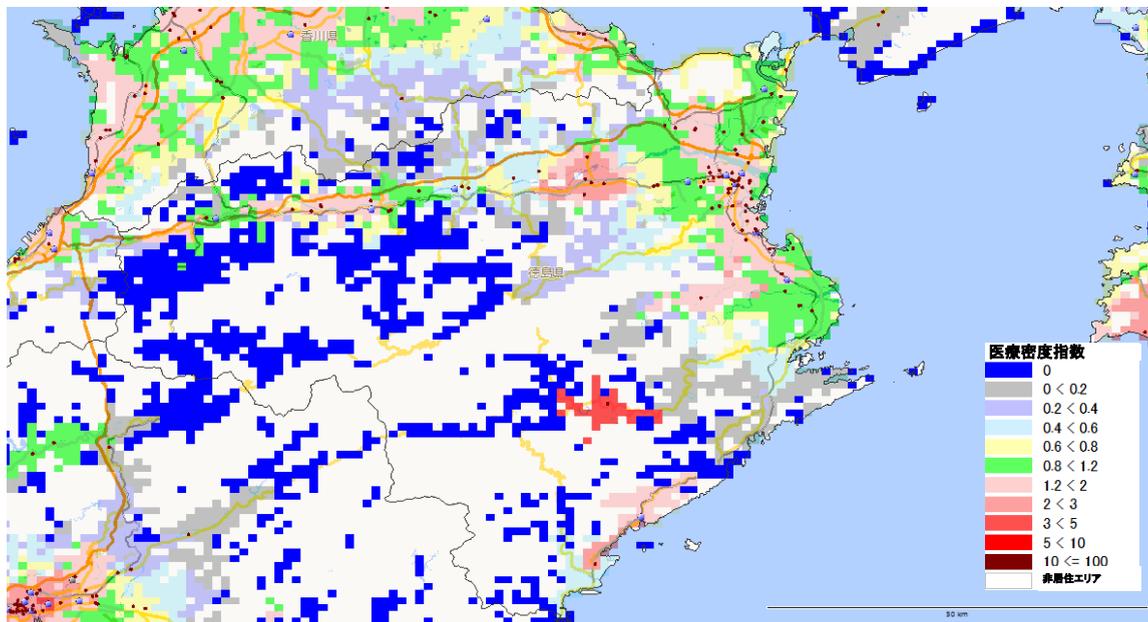
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が5,441床(75歳以上1,000人当たり56(全国平均32)偏差値63)であったが、2018年に4,376床(75歳以上1,000人当たり36(全国平均20)偏差値65)と、1065床の減少、率にして20%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



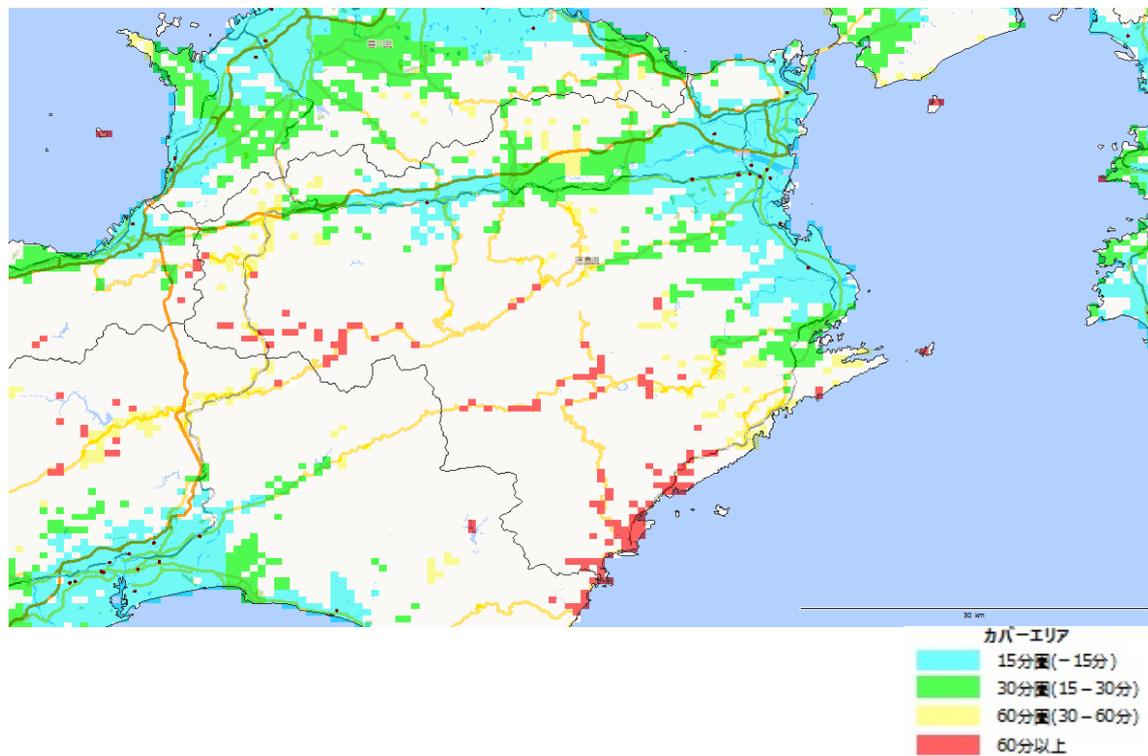
## (徳島県) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表36-1 急性期医療密度指数マップ



図表36-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資\_図表 36-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
徳島県	756	44位	4,147	36位	182.3		31%	688	574	121	143	140	-9%	-17%	18%	-2%
東部	527	70%	1,017	25%	518.5	地方都市型	29%	492	425	76	96	98	-7%	-14%	26%	2%
南部	148	20%	1,724	42%	85.6	過疎地域型	34%	128	100	27	30	26	-14%	-22%	11%	-13%
西部	81	11%	1,406	34%	57.5	過疎地域型	38%	67	49	18	17	16	-17%	-27%	-6%	-6%
出典	<人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 <面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月															

資\_図表 36-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2019年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,499,244	1,772,098	-18.2%
徳島県	1.12	2.27	11,701	11,883	-1.6%
東部	1.23	1.89	7,139	7,959	-11.5%
南部	0.92	2.06	2,510	2,513	-0.1%
西部	0.76	0.84	2,052	1,411	31.2%
出典	<一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日経総研WP no.375) ) <75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2019年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。				

資\_図表 36-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり医療費 (国保のみ) (単位:千円)			入院費 (単位:千円)			入院外+ 調剤 (単位:千円)			被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	
	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数
全国	356	(44)	1.000	139	(31)	1.000	192	(17)	1.000	255	(34)
徳島県	405	61	1.098	181	64	1.257	198	53	0.990	287	60
東部	396	59	1.081	172	61	1.206	196	52	0.994	283	58
南部	407	62	1.061	180	63	1.200	199	54	0.960	292	61
西部	465	75	1.201	238	82	1.565	203	56	0.972	304	64
出典	<一人あたり医療費>平成29年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資\_図表 36-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり 後期高齢者 医療費 (単位:千円)			入院費 (単位:千円)			入院外+ 調剤 (単位:千円)		
	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数		偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	
全国	929	(120)	1.000	466	(100)	1.000	429	(38)	1.000
徳島県	1,031	59	1.069	556	59	1.141	442	54	0.998
東部	1,055	61	1.095	566	60	1.163	455	57	1.027
南部	954	52	1.000	502	54	1.036	417	47	0.957
西部	1,048	60	1.072	596	63	1.183	426	49	0.967
出典	<一人あたり医療費>平成29年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資\_図表 36-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数				診療所数			
	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,372		6.6	(3.9)	102,105		80	(19.0)
徳島県	109	1.3%	14.4	70	730	0.7%	97	59
東部	72	66%	13.7	68	533	73%	101	61
南部	20	18%	13.5	68	122	17%	83	51
西部	17	16%	21.0	87	75	10%	93	57
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

36.徳島県(2019年版)

資\_図表 36-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数				有床 診療所数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	102,105		80	(19.0)			75	(18.9)			5.5	(5.8)
徳島県	730	0.7%	97	59	625	0.7%	83	54	105	1.5%	13.9	65
東部	533	73%	101	61	447	72%	85	55	86	82%	16.3	69
南部	122	17%	83	51	115	18%	78	52	7	7%	4.7	49
西部	75	10%	93	57	63	10%	78	52	12	11%	14.8	66
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

資\_図表 36-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数				病院+ 診療所 病床数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	1,546,554		1,217	(476)			75	(91)			1,291	(530)
徳島県	14,359	0.9%	1,900	64	1,768	1.9%	234	67	16,127	1.0%	2,134	66
東部	10,207	71%	1,936	65	1,441	82%	273	72	11,648	72%	2,210	67
南部	2,347	16%	1,590	58	113	6%	77	50	2,460	15%	1,666	57
西部	1,805	13%	2,231	71	214	12%	265	71	2,019	13%	2,496	73
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資\_図表 36-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	療養 病床数				精神 病床数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	890,712		701	(223)			251	(200)			259	(209)
徳島県	6,484	0.7%	858	57	4,220	1.3%	558	65	3,595	1.1%	476	60
東部	4,299	66%	815	55	3,215	76%	610	68	2,655	74%	504	62
南部	1,540	24%	1,043	65	541	13%	366	56	258	7%	175	46
西部	645	10%	797	54	464	11%	574	66	682	19%	843	78
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

資\_図表 36-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期 病床数				地域包括 ケア 病床数			
	回復期 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	地域包括 ケア 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	80,806		64	(46)	79,543		63	(71)
徳島県	892	1.1%	118	62	648	0.8%	86	53
東部	738	83%	140	66	389	60%	74	52
南部	132	15%	89	56	142	22%	96	55
西部	22	2%	27	42	117	18%	145	62
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				令和元年6月地方厚生局			

資\_図表 36-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	440,405	392,862	15,873	1,086,693	494,667	292,291	44.3%	(27%)	5.2%	(22%)
徳島県	4,503	4,288	50	9,411	2,022	3,899	68.0%	59	1.3%	48
東部	2,851	2,708	0	7,130	1,587	2,993	63.1%	57	0.0%	48
南部	1,252	1,194	50	925	176	491	87.2%	66	9.2%	52
西部	400	386	0	1,356	259	415	59.8%	56	0.0%	48
出典	地方厚生局指定一覧令和元年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機 関とし、それ以外は民間病院とした。									

資\_図表 36-11 全身麻酔件数、分娩件数(年間)

二次医療圏	全身麻酔 件数				分娩 件数			
	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,217,312		1,745	(819)	923,436		727	(264)
徳島県	14,748	0.7%	1,951	53	5,184	0.6%	686	48
東部	10,488	71%	1,989	53	3,804	73%	722	50
南部	4,008	27%	2,714	62	960	19%	650	47
西部	252	2%	311	33	420	8%	519	42
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

36.徳島県(2019年版)

資\_図表 36-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数				病院医師数				診療所医師数			
	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	311,963		245	(92)	208,127		164	(73)	103,836		82	(24)
徳島県	2,425	0.8%	321	58	1,665	0.8%	220	58	760	0.7%	101	58
東部	1,885	78%	358	62	1,293	78%	245	61	592	78%	112	63
南部	383	16%	259	52	278	17%	188	53	105	14%	71	46
西部	157	6%	194	44	94	6%	116	44	63	8%	78	48
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月			

資\_図表 36-13 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科専門医数				小児科専門医数				産婦人科専門医数			
	総合内科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	小児科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	産婦人科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	29,158		22.9	(11.4)	14,021		11.0	(4.9)	11,300		8.9	(4.1)
徳島県	226	0.8%	29.9	56	83	0.6%	11.0	50	84	0.7%	11.1	55
東部	186	82%	35.3	61	66	80%	12.5	53	67	80%	12.7	59
南部	31	14%	21.0	48	15	18%	10.2	48	11	13%	7.4	46
西部	9	4%	11.1	40	2	2%	2.5	32	6	7%	7.4	46
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資\_図表 36-14 専門医数(皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科専門医数				眼科専門医数				耳鼻咽喉科専門医数			
	皮膚科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	眼科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	耳鼻咽喉科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,732		4.5	(2.2)	9,911		7.8	(3.2)	7,569		6.0	(2.7)
徳島県	41	0.7%	5.4	54	66	0.7%	8.7	53	59	0.8%	7.8	57
東部	37	90%	7.0	61	54	82%	10.2	58	52	88%	9.9	64
南部	4	10%	2.7	42	9	14%	6.1	45	5	8%	3.4	41
西部	0	0%	0	30	3	5%	3.7	37	2	3%	2.5	37
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資\_図表 36-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,675		7.6	(3.7)	21,907		17.2	(7.1)	16,875		13.3	(4.6)
徳島県	76	0.8%	10.1	57	133	0.6%	17.6	51	135	0.8%	17.9	60
東部	67	88%	12.7	64	107	80%	20.3	54	104	77%	19.7	64
南部	3	4%	2.0	35	20	15%	13.5	45	22	16%	14.9	53
西部	6	8%	7.4	49	6	5%	7.4	36	9	7%	11.1	45
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資\_図表 36-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,200		4.9	(2.2)	6,967		5.5	(2.5)	5,943		4.7	(3.2)
徳島県	51	0.8%	6.7	59	61	0.9%	8.1	61	62	1.0%	8.2	61
東部	43	84%	8.2	65	51	84%	9.7	67	48	77%	9.1	64
南部	6	12%	4.1	46	7	11%	4.7	47	11	18%	7.4	59
西部	2	4%	2.5	39	3	5%	3.7	43	3	5%	3.7	47
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資\_図表 36-17 専門医数(麻酔科、病理、救急科)

二次医療圏	麻酔科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	7,382		5.8	(3.3)	1,669		1.3	(1.0)	4,262		3.4	(2.1)
徳島県	48	0.7%	6.4	52	14	0.8%	1.9	55	29	0.7%	3.8	52
東部	37	77%	7.0	54	10	71%	1.9	56	19	66%	3.6	51
南部	7	15%	4.7	47	4	29%	2.7	64	7	24%	4.7	57
西部	4	8%	4.9	47	0	0%	0	37	3	10%	3.7	52
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資\_図表 36-18 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	リハビリテ- ーション科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,220		1.7	(1.3)	2,758		2.2	(1.5)
徳島県	20	0.9%	2.6	57	28	1.0%	3.7	61
東部	17	85%	3.2	61	23	82%	4.4	65
南部	3	15%	2.0	52	4	14%	2.7	54
西部	0	0%	0	36	1	4%	1.2	44
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月							

資\_図表 36-19 看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
徳島県	9,510	0.8%	1,258	62	7,601	0.8%	1,006	62	1,910	0.8%	253	61
東部	6,736	71%	1,278	63	5,310	70%	1,007	62	1,425	75%	270	63
南部	1,731	18%	1,173	59	1,441	19%	976	60	291	15%	197	53
西部	1,043	11%	1,289	64	850	11%	1,051	63	193	10%	239	59
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 36-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	薬剤師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	139,385		110	(57)	311,289		245	(103)
徳島県	1,499	1.1%	198	66	2,674	0.9%	354	61
東部	1,125	75%	213	68	2,160	81%	410	66
南部	227	15%	154	58	351	13%	238	49
西部	146	10%	181	62	163	6%	201	46
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月			

資\_図表 36-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,484		0.9	(0.4)	1,483		0.1	(0.1)	11,549		0.7	(0.2)
徳島県	150	1.0%	1.2	58	40	2.7%	0.3	83	112	1.0%	0.9	60
東部	111	74%	1.5	63	27	68%	0.4	87	87	78%	1.1	70
南部	26	17%	1.0	52	8	20%	0.3	79	15	13%	0.6	43
西部	13	9%	0.7	46	5	13%	0.3	75	10	9%	0.6	43
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 令和元年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 令和元年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 令和元年6月			

資\_図表 36-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,719,101		105	(17)	1,004,501		62	(12)	714,600		44	(16)
徳島県	14,004	0.8%	116	56	9,067	0.9%	75	61	4,937	0.7%	41	48
東部	9,105	65%	120	59	5,345	59%	71	57	3,760	76%	50	54
南部	2,705	19%	101	47	2,057	23%	77	62	648	13%	24	38
西部	2,194	16%	121	59	1,665	18%	92	74	529	11%	29	41
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資\_図表 36-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護療養病床数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	368,125		23	(6.0)	584,338		36	(9.9)	52,038		3.2	(3.8)
徳島県	4,228	1.1%	35	71	3,662	0.6%	30	44	1,177	2.3%	9.7	67
東部	2,595	61%	34	70	1,835	50%	24	38	915	78%	12.1	73
南部	842	20%	31	65	1,035	28%	39	53	180	15%	6.7	59
西部	791	19%	44	85	792	22%	44	58	82	7%	4.5	53
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 36-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	全国	75歳以上	偏差値	全国	軽費ホーム	全国	75歳以上	偏差値	全国	グループホーム	全国	75歳以上	偏差値
		シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は
		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準
		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差
全国	240,971		14.8	(10.9)		23,545		1.4	(2.1)		204,406		12.5	(5.7)
徳島県	195	0.1%	1.6	38		30	0.1%	0.2	44		2,409	1.2%	20.0	63
東部	177	91%	2.3	39		0	0%	0	43		1,617	67%	21.3	65
南部	0	0%	0	36		30	100%	1.1	48		423	18%	15.8	56
西部	18	9%	1.0	37		0	0%	0	43		369	15%	20.3	64
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの													

資\_図表 36-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅(サ高住)定員数

二次医療圏	サ高住(全施設)	全国	75歳以上	偏差値	全国	サ高住(特定施設)	全国	75歳以上	偏差値	全国	サ高住(非特定施設)	全国	75歳以上	偏差値
		シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は
		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準
		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差
全国	245,678		15.1	(7.4)		25,821		1.6	(1.9)		219,857		13.5	(7.1)
徳島県	2,303	0.9%	19.1	55		0	0.0%	0	42		2,303	1.0%	19.1	58
東部	1,966	85%	25.9	65		0		0	42		1,966	85%	25.9	68
南部	195	8%	7.3	40		0		0	42		195	8%	7.3	41
西部	142	6%	7.8	40		0		0	42		142	6%	7.8	42
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計				令和元年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの				令和元年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの					

資\_図表 36-26 介護サービス従事看護師数(介護施設、訪問看護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事看護師数	全国	75歳以上	偏差値	全国	看護師数(施設)	全国	75歳以上	偏差値	全国	看護師数(訪問)	全国	75歳以上	偏差値
		シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は
		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準
		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差
全国	174,893		10.7	(2.2)		119,205		7.3	(1.9)		55,688		3.4	(1.2)
徳島県	1,940	1.1%	16.1	74		1,501	1.3%	12.4	77		439	0.8%	3.6	52
東部	1,314	68%	17.3	80		972	65%	12.8	79		342	78%	4.5	59
南部	334	17%	12.5	58		274	18%	10.2	65		61	14%	2.3	40
西部	292	15%	16.1	74		256	17%	14.1	86		36	8%	2.0	38
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの													

資\_図表 36-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事 介護職員 数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,513,115		93	(11.3)	1,294,087		79	(10.6)	219,028		13.4	(5.3)
徳島県	13,289	0.9%	110	65	11,093	0.9%	92	62	2,196	1.0%	18.2	59
東部	8,543	64%	113	68	6,929	62%	91	61	1,615	74%	21.3	65
南部	2,811	21%	105	61	2,452	22%	92	62	358	16%	13.4	50
西部	1,935	15%	107	62	1,712	15%	94	64	223	10%	12.3	48
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 36-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,228,040		75	(35)	552,189		34	(14)	1,116,943		68	(24)
徳島県	7,741	0.6%	64	47	3,069	0.6%	25	44	14,437	1.3%	120	72
東部	5,754	74%	76	50	2,240	73%	30	47	11,052	77%	146	83
南部	1,341	17%	50	43	348	11%	13	35	1,938	13%	72	52
西部	646	8%	36	39	481	16%	26	45	1,447	10%	80	55
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 36-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
徳島県		809,950	755,733	-7%	687,680	-15%	5%	0%	4%
東部	地方都市型	549,240	527,175	-4%	492,205	-10%	8%	3%	11%
南部	過疎地域型	164,694	147,656	-10%	128,465	-22%	1%	-5%	-4%
西部	過疎地域型	96,016	80,902	-16%	67,010	-30%	-7%	-10%	-17%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,居間人口など) <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資\_図表 36-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,372	6.6	(3.9)	-705	-8%
徳島県	123	15.2	71	109	14.4	70	-14	-11%
東部	81	14.7	70	72	13.7	68	-9	-11%
南部	21	12.8	65	20	13.5	68	-1	-5%
西部	21	21.9	88	17	21.0	87	-4	-19%
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資\_図表 36-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	102,105	80	(19)	5,054	5%
徳島県	791	98	61	730	97	59	-61	-8%
東部	554	101	62	533	101	61	-21	-4%
南部	143	87	55	122	83	51	-21	-15%
西部	94	98	61	75	93	57	-19	-20%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資\_図表 36-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	311,963	245	(92)	41,592	15%
徳島県	2,296	283	59	2,425	321	58	129	6%
東部	1,708	311	62	1,885	358	62	177	10%
南部	392	238	53	383	259	52	-9	-2%
西部	196	204	49	157	194	44	-39	-20%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2018年>平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月							

資\_図表 36-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,641,407	129	(53)	-171,147	-9%
徳島県	18,952	234	66	16,127	213	66	-2,825	-15%
東部	13,320	243	68	11,648	221	67	-1,672	-13%
南部	2,933	178	56	2,460	167	57	-473	-16%
西部	2,699	281	75	2,019	250	73	-680	-25%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資\_図表 36-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	977,056	77	(26)	-91,765	-9%
徳島県	9,115	113	60	8,096	107	62	-1,019	-11%
東部	6,056	110	59	5,650	107	62	-406	-7%
南部	1,999	121	63	1,621	110	63	-378	-19%
西部	1,060	110	59	825	102	60	-235	-22%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資\_図表 36-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

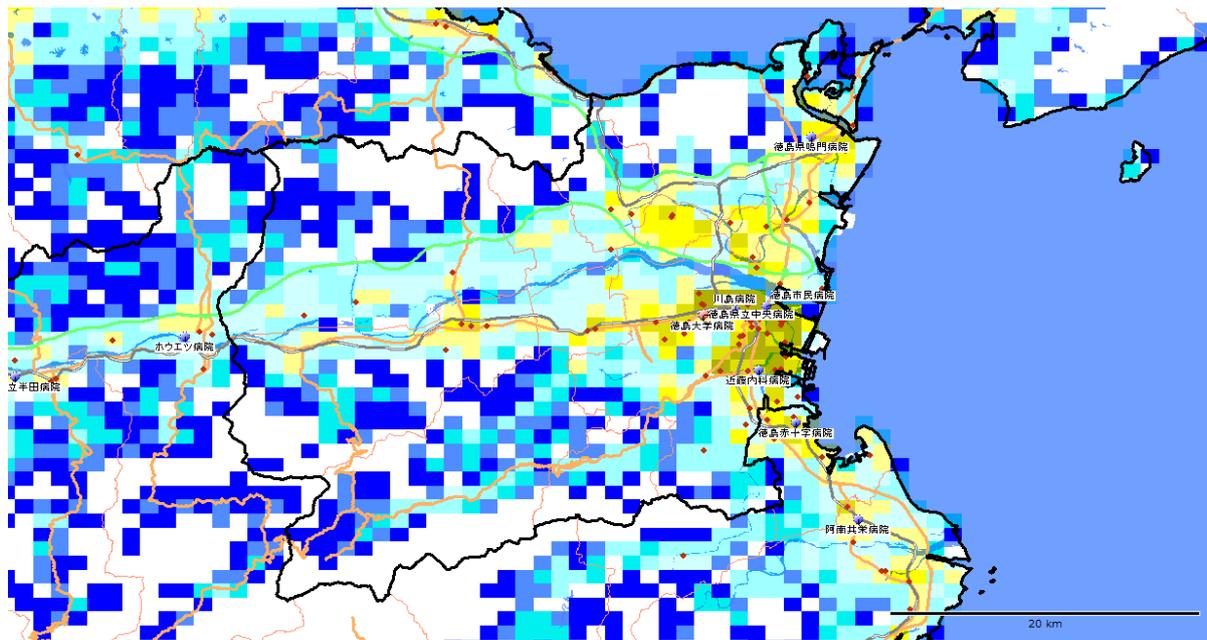
二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	328,015	20	(11)	-45,808	-12%
徳島県	5,441	56	63	4,376	36	65	-1,065	-20%
東部	4,101	70	71	3,305	44	71	-796	-19%
南部	618	28	47	573	21	51	-45	-7%
西部	722	44	56	498	27	57	-224	-31%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

# 36-1. とうぶ 東部医療圏

構成市区町村 [徳島市](#) [鳴門市](#) [吉野川市](#) [阿波市](#)  
[佐那河内村](#) [石井町](#) [神山町](#) [松茂町](#)  
[北島町](#) [藍住町](#) [板野町](#) [上板町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS  
 Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



## (東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 東部(徳島市)は、総人口約527千人(2015年)、面積1,017km<sup>2</sup>、人口密度は519人/km<sup>2</sup>の地方都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 東部の総人口は2025年に492千人へと減少し(2015年比-7%)、2040年に425千人へと減少する(2025年比-14%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の76千人が、2025年にかけて96千人へと増加し(2015年比+26%)、2040年には98千人へと増加する(2025年比+2%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 東部の一人当たり医療費(国保)は396千円(偏差値59)、介護給付費は283千円(偏差値58)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 東部の一人当たり急性期医療密度指数は1.23、一人当たり慢性期医療密度指数は1.89で、急性期の医療も慢性期の医療も充実している。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が62(病院医師数61、診療所医師数63)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は63と多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は55で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は53とやや多い。東部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の徳島県立中央病院(Ⅱ群・救命)、徳島大学病院(Ⅰ群)、1000例以上の徳島県鳴門病院(Ⅲ群)、徳島市民病院(Ⅲ群)がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は68と療養病床数は非常に多い。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値68と非常に多く、回復期病床数は偏差値66と非常に多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は62で精神病床数は多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は61で診療所数は多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9,105人(75歳以上1,000人当たりの偏差値59)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が5,345床(偏差値57)、高齢者住宅等が3,760床(偏差値54)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,929人(75歳以上1,000人当たりの偏差値61)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設70、特別養護老人ホーム38、介護療養型医療施設73、有料老人ホーム39、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム65、サ高住65である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値63と多く、在宅療養支援病院は偏差値87と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値70と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、1,615人(75歳以上1,000人当たりの偏差値65)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-11%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

## (東部医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

東部医療圏の総人口は、2005年549,240人が、2015年に527,175人と4%減少し、2025年の人口が492,205人と予測され、2005年→2025年の間に10%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に8%増加し、2015年から2025年にかけて3%程度の増加が予測される。

## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

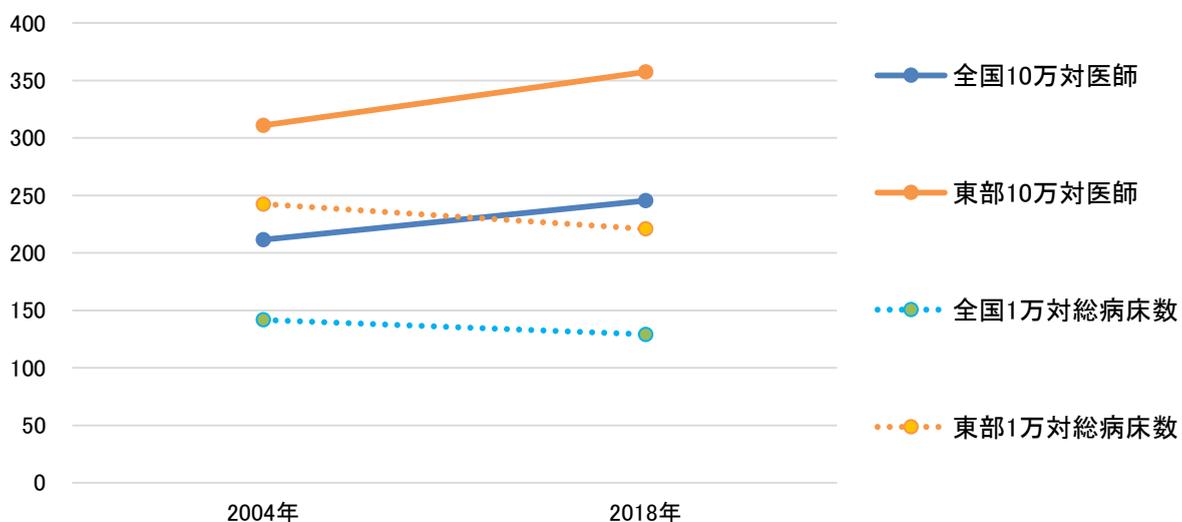
2004年の病院数が81(人口10万人当たり14.7病院(全国平均7.1)偏差値70)であったが、2018年に72(人口10万人当たり13.7病院(全国平均6.6)偏差値68)となり、14年間で9病院が減少した。

2004年の診療所数が554(人口10万人当たり101診療所(全国平均76)偏差値62)であったが、2018年に533(人口10万人当たり101診療所(全国平均80)偏差値61)と、21診療所が減少した。

2004年の総病床数が13,320床(人口1万人当たり243(全国平均142)偏差値68)であったが、2018年に11,648床(人口1万人当たり221(全国平均129)偏差値67)と、1,672床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

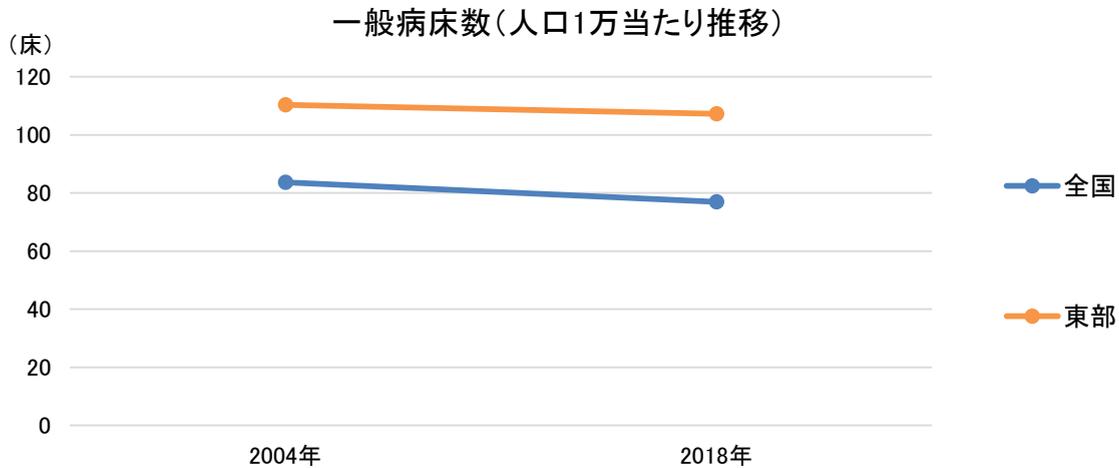
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,708人(人口10万人当たり311人(全国平均212人)偏差値62)であったが、2018年に1,885人(人口10万人当たり358人(全国平均245人)偏差値62)と、177人の増加、率にして10%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



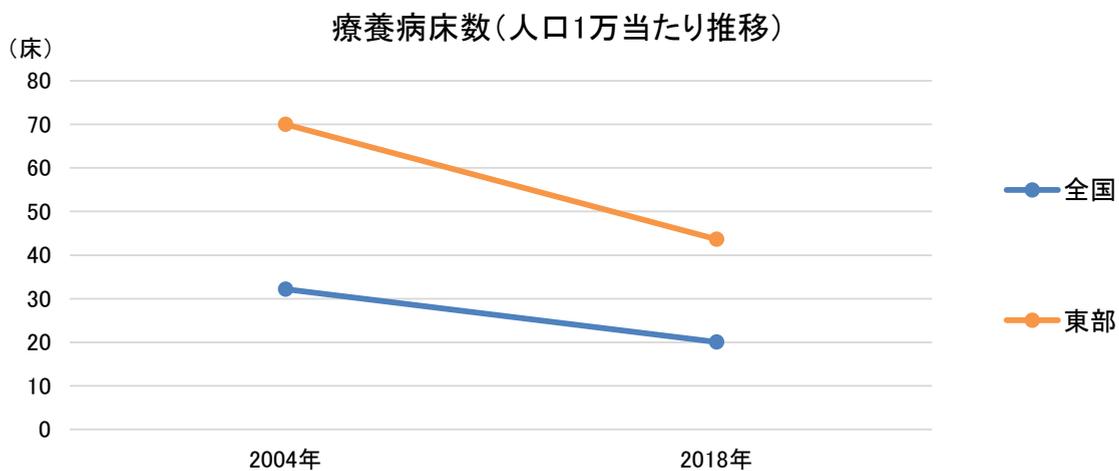
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が6,056床(人口1万人当たり110(全国平均84)偏差値59)であったが、2018年に5,650床(人口1万人当たり107(全国平均77)偏差値62)と、406床の減少、率にして7%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



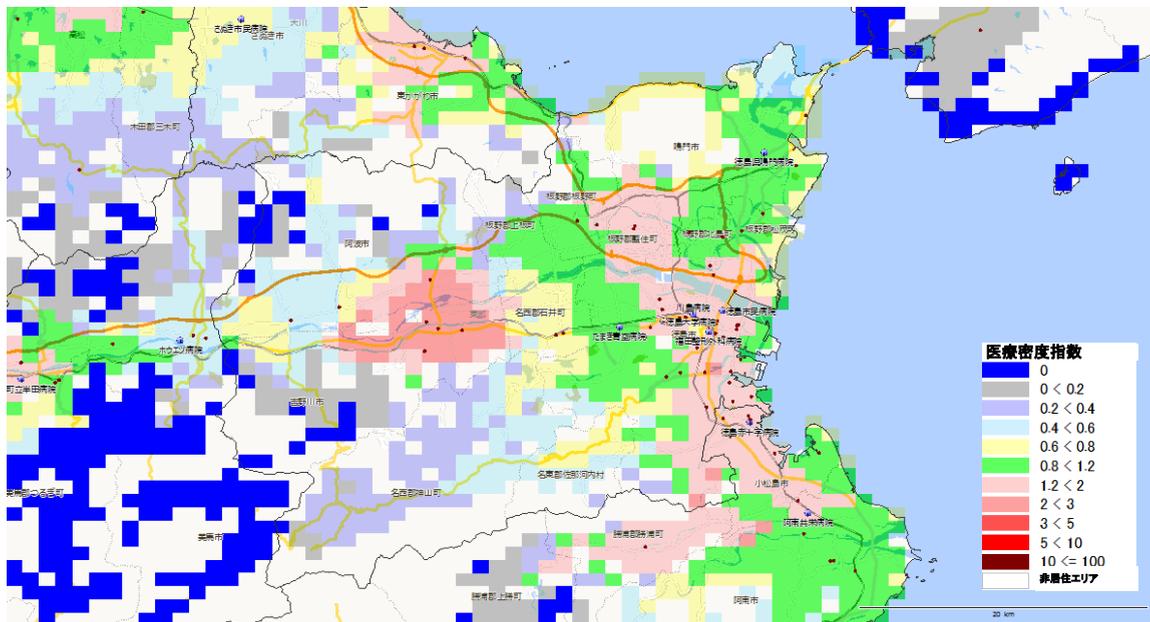
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が4,101床(75歳以上1,000人当たり70(全国平均32)偏差値71)であったが、2018年に3,305床(75歳以上1,000人当たり44(全国平均20)偏差値71)と、796床の減少、率にして19%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



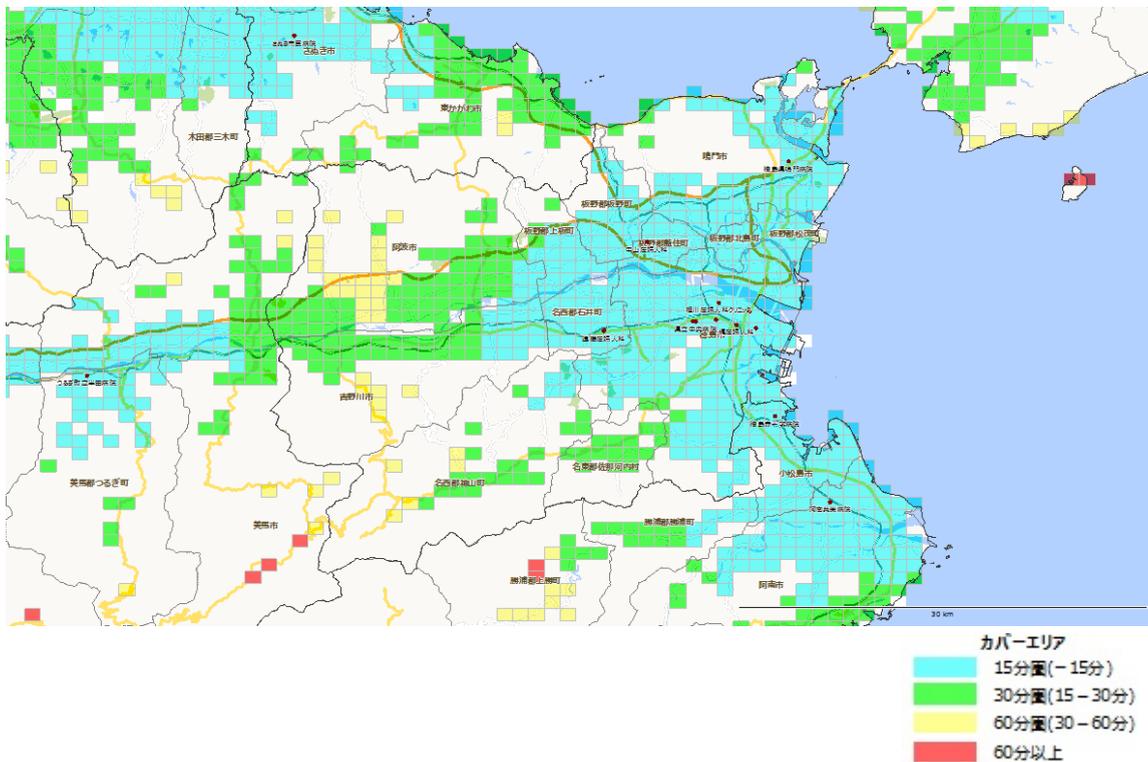
(東部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表36-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表36-1-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

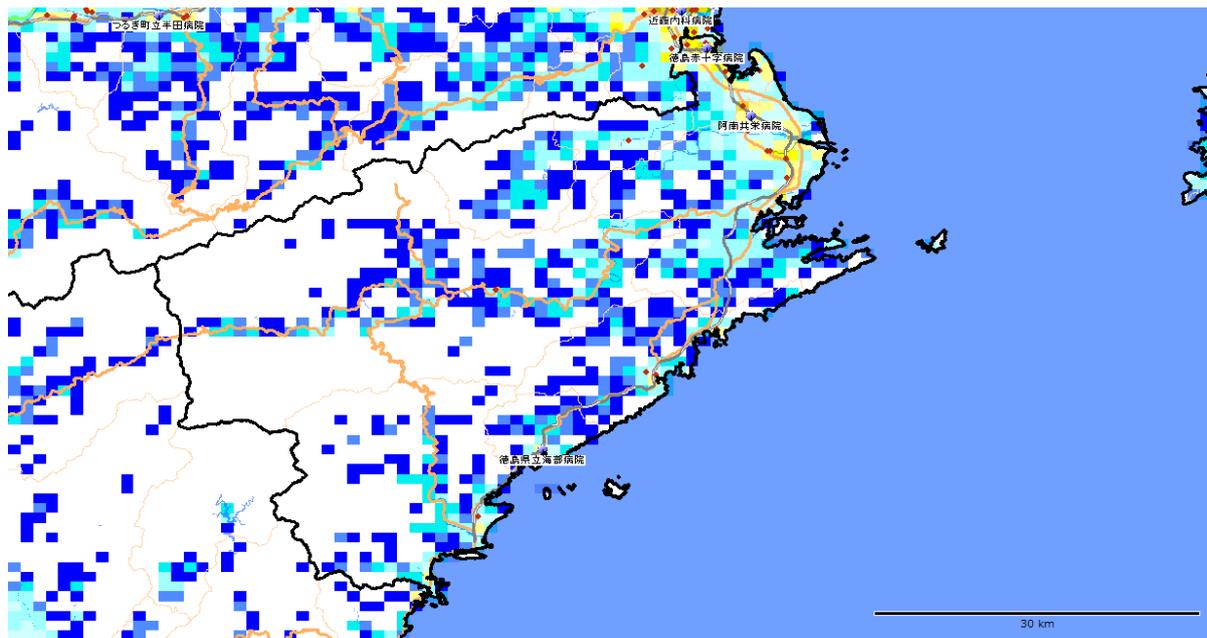


## 36-2. なんぶ南部医療圏

構成市区町村 [小松島市](#) [阿南市](#) [勝浦町](#) [上勝町](#)  
[那賀町](#) [牟岐町](#) [美波町](#) [海陽町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



● 一般病院

## (南部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 南部(小松島市)は、総人口約148千人(2015年)、面積1,724km<sup>2</sup>、人口密度は86人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 南部の総人口は2025年に128千人へと減少し(2015年比-14%)、2040年に100千人へと減少する(2025年比-22%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の27千人が、2025年にかけて30千人へと増加し(2015年比+11%)、2040年には26千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 南部の一人当たり医療費(国保)は407千円(偏差値62)、介護給付費は292千円(偏差値61)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 南部の一人当たり急性期医療密度指数は0.92、一人当たり慢性期医療密度指数は2.06で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が52(病院医師数53、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は59と多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は65で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は62と多い。南部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の徳島赤十字病院(Ⅱ群・救命)がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は56と療養病床数は多い。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値58と多く、回復期病床数は偏差値56と多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は46で精神病床数はやや少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は51で診療所数は全国平均レベルである。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 南部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2,705人(75歳以上1,000人当たりの偏差値47)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が2,057床(偏差値62)、高齢者住宅等が648床(偏差値38)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、2,452人(75歳以上1,000人当たりの偏差値62)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設65、特別養護老人ホーム53、介護療養型医療施設59、有料老人ホームなし(偏差値36)、軽費ホーム48、グループホーム56、サ高住40である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値52と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値79と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値43と少ない。介護職員(在宅)の合計は、358人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は±0%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数ではほぼ対応可能である。

## (南部医療圏) 2. 推移

### 【人口と医療需要】

南部医療圏の総人口は、2005年164,694人が、2015年に147,656人と10%減少し、2025年の人口が128,465人と予測され、2005年→2025年の間に22%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に1%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の減少が予測される。

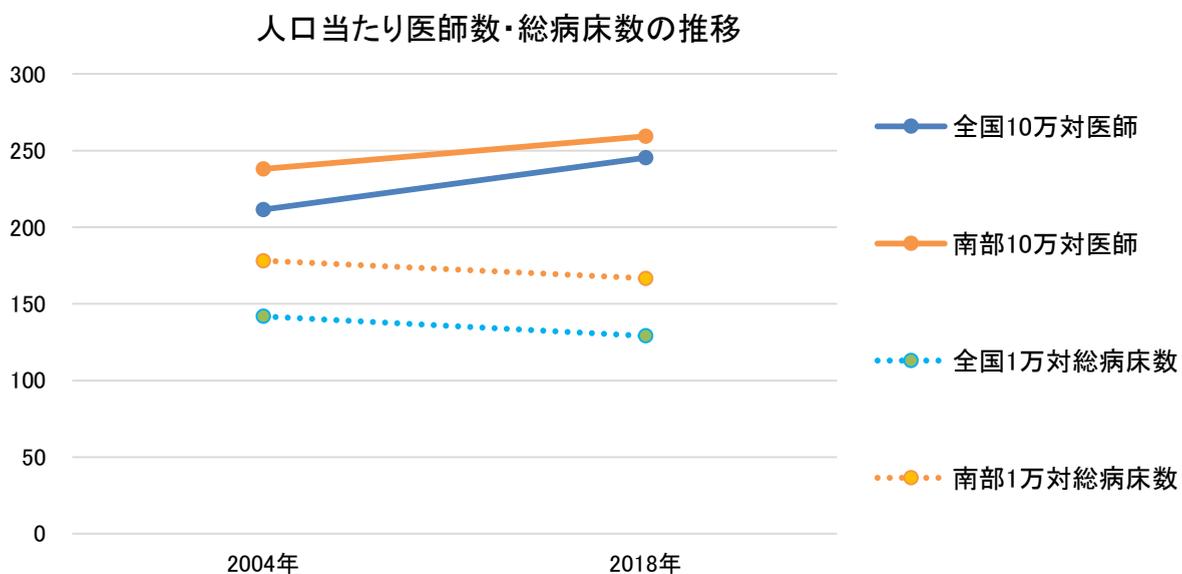
### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が21(人口10万人当たり12.8病院(全国平均7.1)偏差値65)であったが、2018年に20(人口10万人当たり13.5病院(全国平均6.6)偏差値68)となり、14年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が143(人口10万人当たり87診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2018年に122(人口10万人当たり83診療所(全国平均80)偏差値51)と、21診療所が減少した。

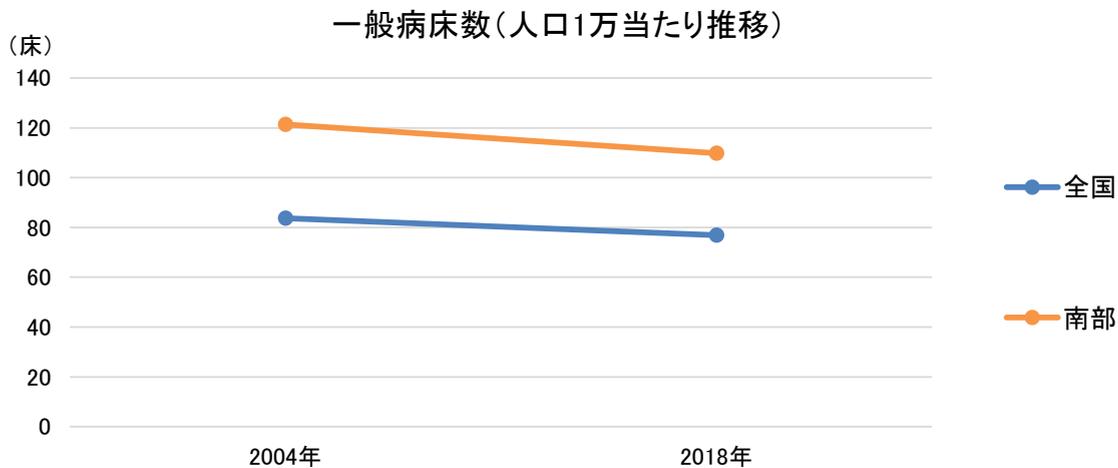
2004年の総病床数が2,933床(人口1万人当たり178(全国平均142)偏差値56)であったが、2018年に2,460床(人口1万人当たり167(全国平均129)偏差値57)と、473床の減少、率にして16%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が392人(人口10万人当たり238人(全国平均212人)偏差値53)であったが、2018年に383人(人口10万人当たり259人(全国平均245人)偏差値52)と、9人の減少、率にして2%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



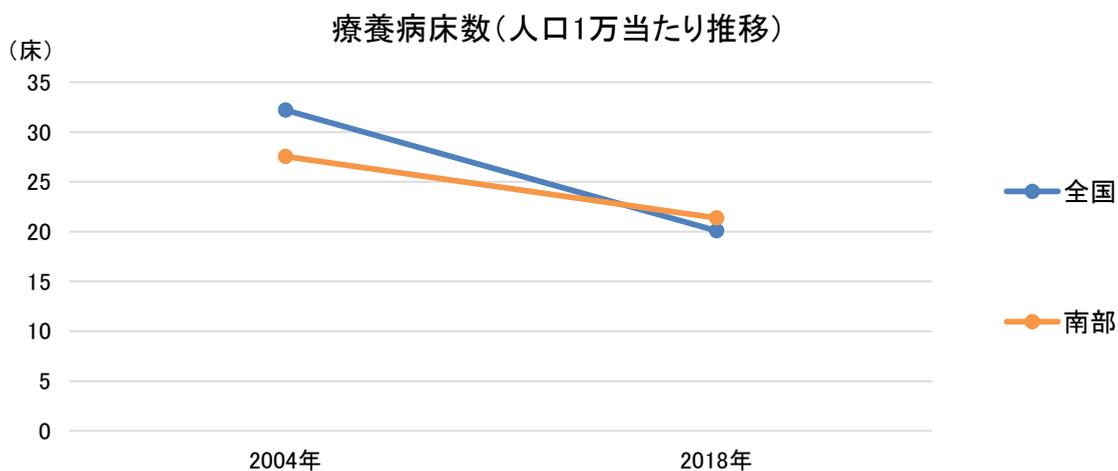
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,999床(人口1万人当たり121(全国平均84)偏差値63)であったが、2018年に1,621床(人口1万人当たり110(全国平均77)偏差値63)と、378床の減少、率にして19%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



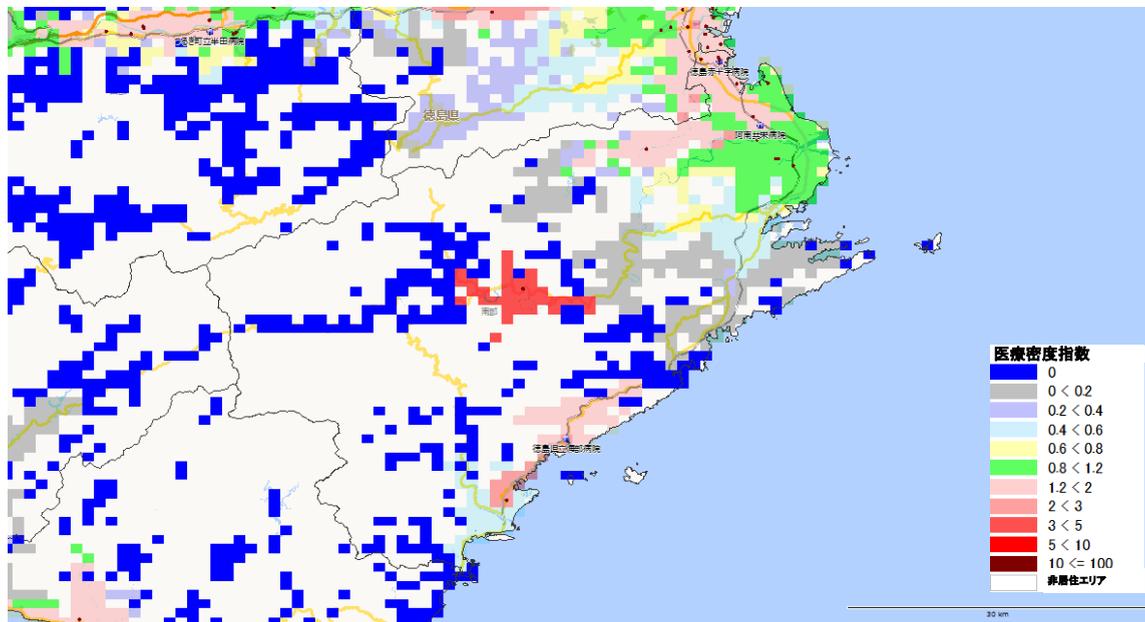
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が618床(75歳以上1,000人当たり28(全国平均32)偏差値47)であったが、2018年に573床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値51)と、45床の減少、率にして7%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



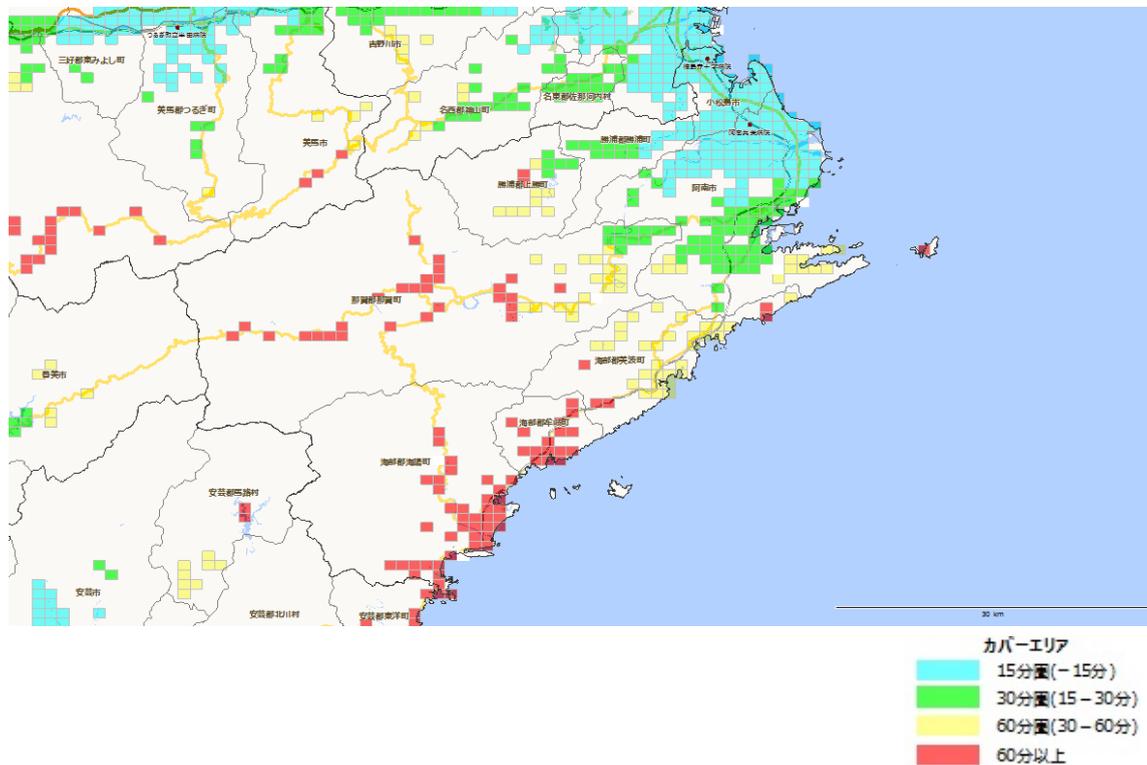
## (南部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表36-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表36-2-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

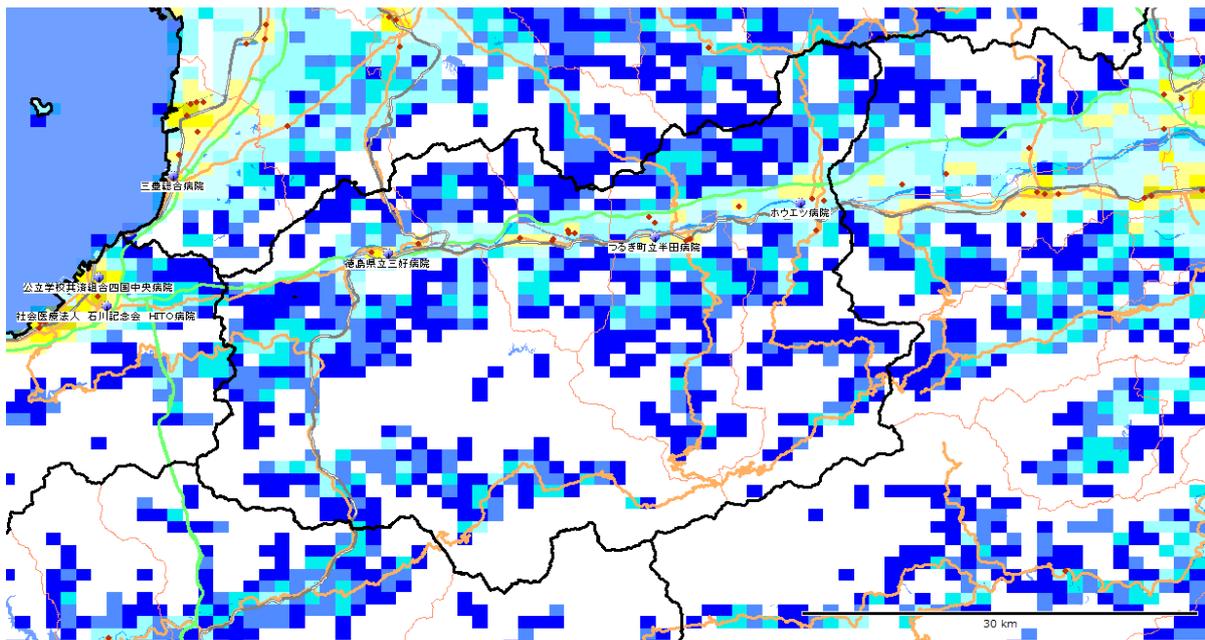


# 36-3. せいぶ西部医療圏

構成市区町村 [美馬市](#) [三好市](#) [つるぎ町](#) [東みよし町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



## (西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など：西部(美馬市)は、総人口約81千人(2015年)、面積1,406km<sup>2</sup>、人口密度は58人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測：西部の総人口は2025年に67千人へと減少し(2015年比-17%)、2040年に49千人へと減少する(2025年比-27%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の18千人が、2025年にかけて17千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年には16千人へと減少する(2025年比-6%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費：西部の一人当たり医療費(国保)は465千円(偏差値75)、介護給付費は304千円(偏差値64)であり、医療費は非常に高く、介護給付費は高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度：西部の一人当たり急性期医療密度指数は0.76、一人当たり慢性期医療密度指数は0.84で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状：総医師数の偏差値が44(病院医師数44、診療所医師数48)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は64と多い。

\*一般病床等の現状：人口当たりの一般病床の偏差値は54で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は33と非常に少ない。西部には、年間全身麻酔件数が500例以上の徳島県立三好病院(Ⅲ群・救命)がある。

\*療養病床の現状：人口当たりの療養病床の偏差値は66と療養病床数は非常に多い。

\*リハビリの現状：総療法士数は偏差値62と多く、回復期病床数は偏差値42と少ない。

\*精神病床の現状：人口当たりの精神病床の偏差値は78で精神病床数は非常に多い。

\*診療所の現状：人口当たりの診療所数の偏差値は57で診療所数は多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状：西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2,194人(75歳以上1,000人当たりの偏差値59)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1,665床(偏差値74)、高齢者住宅等が529床(偏差値41)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1,712人(75歳以上1,000人当たりの偏差値64)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設85、特別養護老人ホーム58、介護療養型医療施設53、有料老人ホーム37、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム64、サ高住40である。

\*在宅ケアの現状：在宅療養支援診療所は偏差値46とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値75と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値43と少ない。介護職員(在宅)の合計は、223人(75歳以上1,000人当たりの偏差値48)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

\*介護の2025年の需要予測：2025年の介護充足度指数は+31%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数では過剰である。

## (西部医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

西部医療圏の総人口は、2005年96,016人が、2015年に80,902人と16%減少し、2025年の人口が67,010人と予測され、2005年→2025年の間に30%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に7%減少し、2015年から2025年にかけて10%程度の減少が予測される。

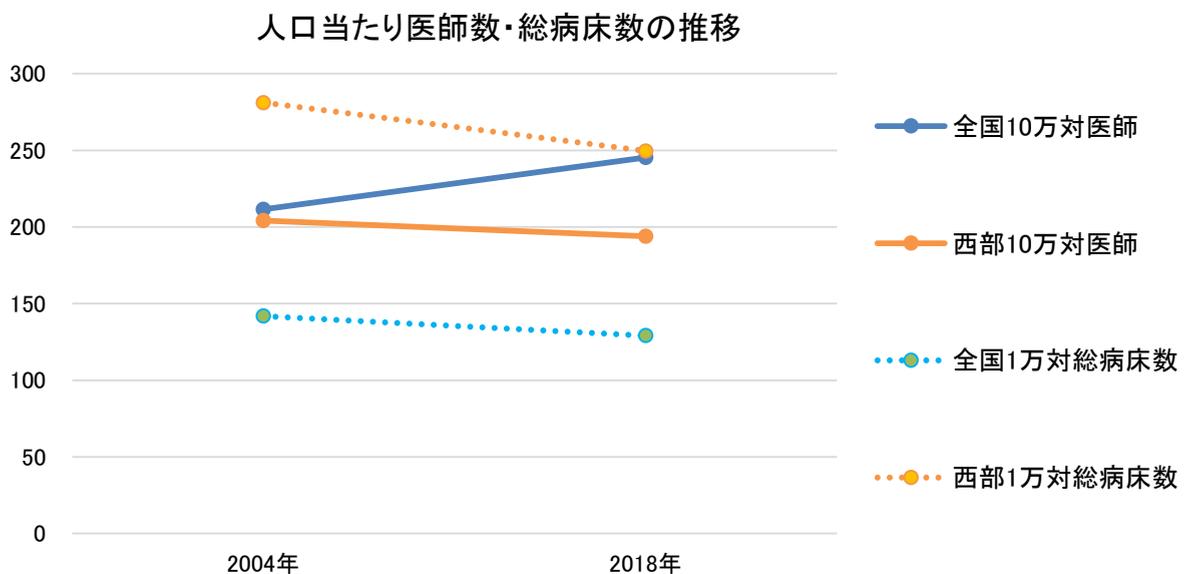
## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が21(人口10万人当たり21.9病院(全国平均7.1)偏差値88)であったが、2018年に17(人口10万人当たり17病院(全国平均6.6)偏差値87)となり、14年間で4病院が減少した。

2004年の診療所数が94(人口10万人当たり98診療所(全国平均76)偏差値61)であったが、2018年に75(人口10万人当たり93診療所(全国平均80)偏差値57)と、19診療所が減少した。

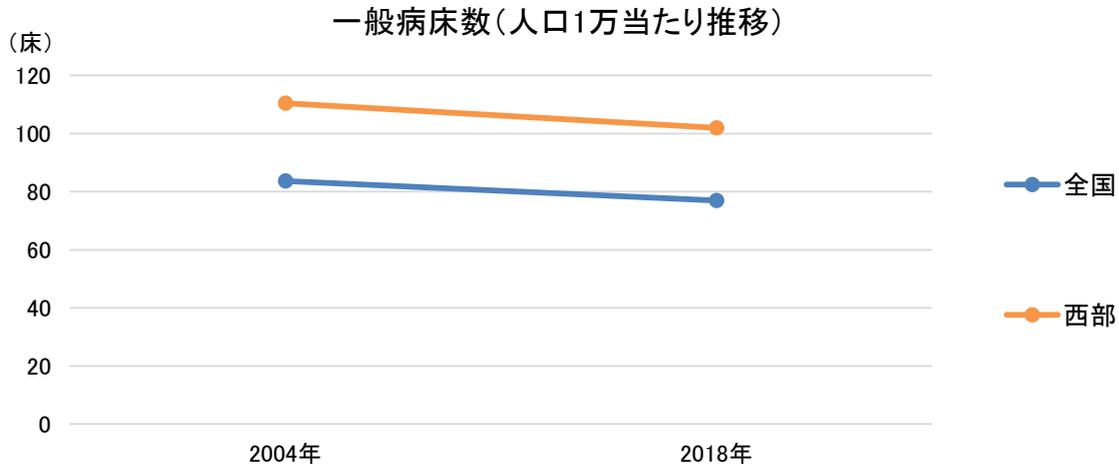
2004年の総病床数が2,699床(人口1万人当たり281(全国平均142)偏差値75)であったが、2018年に2,019床(人口1万人当たり250(全国平均129)偏差値73)と、680床の減少、率にして25%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が196人(人口10万人当たり204人(全国平均212人)偏差値49)であったが、2018年に157人(人口10万人当たり194人(全国平均245人)偏差値44)と、39人の減少、率にして20%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



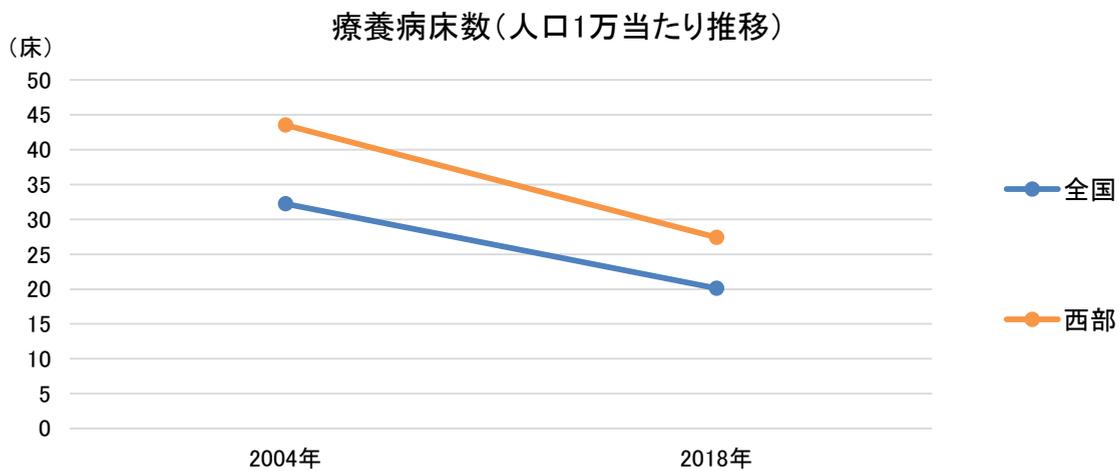
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,060床(人口1万人当たり110(全国平均84)偏差値59)であったが、2018年に825床(人口1万人当たり102(全国平均77)偏差値60)と、235床の減少、率にして22%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



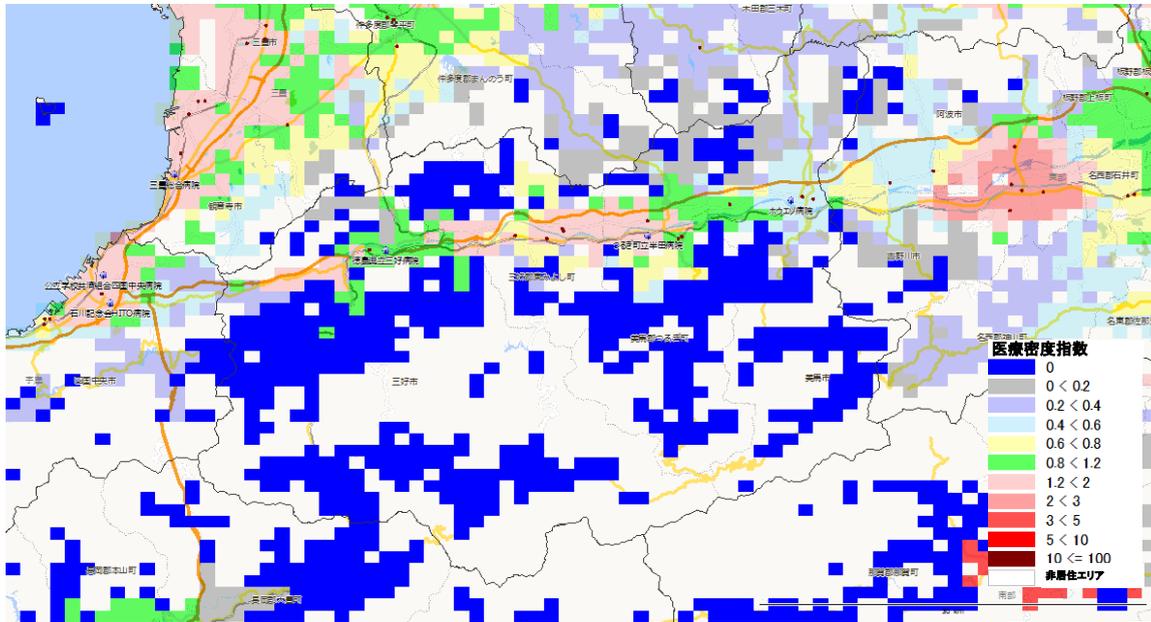
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が722床(75歳以上1,000人当たり44(全国平均32)偏差値56)であったが、2018年に498床(75歳以上1,000人当たり27(全国平均20)偏差値57)と、224床の減少、率にして31%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



(西部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表36-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表36-3-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

